

令和 4 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価	
作成日 令和5年5月15日	
法人名	園名
裕榮福祉会	認定こども園 玉櫛たちばな保育園
まとめ	
第2章第2節 乳児期の園児の保育	乳児期は特に子どもの安心・安全を第一に考え、安心して過ごせるための職員との信頼関係作り、発達に応じた安全且つ五感を刺激する環境作りを行っている。今後も、子ども達の姿を職員間で省察し、保育教諭のより良い関り・環境設定に努める。今後の課題として、行動範囲や興味の対象に応じた保育室・テラスや園庭等の環境の充実、又柔軟な活用を意識していく。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	毎日の生活の中で、職員が明るく親しみを込めた挨拶を繰り返す中で、言葉を理解し、園児自ら発してみようと思える雰囲気づくりを大切にしている。保育教諭が率先して、園児や保護者、地域の方々に丁寧に言葉を変えるように努めている。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子どもの安心を基盤に考え、様々な取り組みの中で五領域の育ちを意識した関りを日々積み重ねている。課題としては、地域との交流、環境との関わり(園外・戸外・室内)があがった。様々なリスクを想定しながらも遊びの中で子ども達に培われるものを意識した環境構成や経験する内容、保育教諭の応答を職員間で話し合っていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	乳児期の成長・発達が著しい園児一人ひとりを丁寧に見守り、温かい援助を心がけることが出来た。園での姿を保護者に詳しく伝えることで、信頼関係を築けるように努め、家庭状況を把握し連携を図った。日々の関わりの中で家庭で抱える問題に早期に気づき、必要に応じて育児相談を行い、育児負担や不安を軽減し、心身ともに安定した生活が送れるように積極的に働きかけるようにした。
第3章 健康及び安全	年2回の内科健診、年1回の歯科健診を行い、医師の指示により受診要請を保護者をお願いしている。また、体重測定では、体全体の観察をすることができるため、健康面や家庭生活での問題がないか、職員同士での見守りが出来ている。
第4章 子育ての支援	園における子育て支援の役割は大きく、子どもへの支援と同様に当然のこのように日々積み重ねている。そのことの重要性を知り、意識を持つことが職員一人一人の質を高め、より良い支援の提供につながると考えるので、子どもだけでなく保護者支援の現状や課題点に着目できる職員間のやり取りを心がけたい。
第5章 職員の資質向上	日々の業務に追われ忙しく過ごしている中でも、新しいことを学ぼうという意欲を持つ保育教諭は多い。ただ、中には今の状況に安住し、新しいことに取り組むことを嫌う教諭もいる。良い影響を他の保育教諭に与えてくれる人材を特に取り立て、良い影響の輪を広げていきたい。子ども達のより良い育ちのため、また少子化に向かうこれからのため、進化し続けなければ生き残れないのだという自覚を、皆が持てるよう導いていきたい。
総合	<p>全体的に当園はととても真面目に、子どものより良い育ちを目指して努力を続けていると考える。勿論改善が必要な点もあるので、そこは改善に向けて努力を続けていく。その際に、子どもを真ん中に考えるというシンプルな原則を軸に、問題を見誤らないように気を付けていきたい。</p> <p>また、コロナが5類になったので、以前からあまりできていなかった地域住民との交流に、今後はもっと力を注いでいきたい。地域の理解を得、受け入れていただき、園の子ども達を地域住民の方々と共に育てていくことができる、そんな理想の施設を目指し、今後も職員皆で力を合わせていきたい。</p>